

## 令和3年度町政懇話会（寄地区） 結果報告

日時 令和3年11月6日（土）13時30分～

場所 寄小学校屋内運動場 多目的ルーム

参加者数：17名

町出席者

本山町長、田代副町長、政策推進課長、安全防災担当室専任主幹、子育て健康課長、観光経済課長、環境上下水道課長、教育課長

（事務局）政策推進課 鍵和田課長補佐、金谷、杉崎、渡邊、小林

### 1 開会

### 2 町長あいさつ

- ・ナラ枯れが少しずつ増えてきており、課題となっている。県に対しては自然災害による孤立への対策など、ナラ枯れも含めて要望している。今後も皆さまのお声をいただきながら、本当の意味で紅葉が美しいといえるような地域にしたい。
- ・寄診療所のワクチンの不適切な保管の件について、皆さまへのご報告が遅くなってしまったことなど、まずお詫びする。毎週火曜日の上病院の先生による診療は、維持していただける。また、週にプラス1日来ていただけるよう相談しており、検討していただいている。常駐の先生が1月から来ていただけるという内諾をいただいているので、決まり次第ご報告をさせていただく。

### 3 意見交換

#### ◆事前に頂いた意見への回答について

#### ①第3期本山町政における寄地区の振興に係る具体的な施策について

（観光経済課長）

- ・現在までに取り組んできたことについては、ドッグランや古民家の整備など、観光拠点の整備を地方創生という大きな流れの中で実施してきた。これからのキーワードは、時代のニーズにどう対応するかが重要で、トレンドが「数より質」に移行してきている。
- ・コロナ禍により、少人数で屋内や自然を求めている、そのニーズにマッチするのが寄であると考え。今までの取り組みをただ継続するのではなく、トレンドを踏まえ、発展させていく。
- ・上記を実施するために重要なことは、寄地区の中での連携であると考え。若葉まつりでは、地域の皆さまが一丸となって取り組んでいることに感動し

た。ロウバイまつりでは、維持、管理、運営を行うにあたり、非常に高齢化が進んでいるため、今後続けていけるのかという不安がある。拠点と拠点を連携することで、相乗効果を図ることが重要。

- ・スポーツを観光施策にどう生かしていくのか。ハイキングやグラウンド、テニスコートがあり、それらを繋いでスポーツツーリズムにこれから取り組んでいく。皆さまと話をさせて頂きながら、施設の改修も含めて検討していきたい。

(町長より補足)

- ・振興といっても、何をもち振興とするのかによって回答は様々になる。私を感じてきたことは、自然を壊されたくないということはよく聞いており、承知している。あるものをどう生かしていくかに対して、我々が知恵を出さなくてはならない。
- ・「野生鳥獣による被害があるため、地域産品は作れない」といった声を頂いた。単に経済を回すだけではなく山の保全や人と動物の境がなくなっている状況を直しつつ、振興の仕方についてどのような感覚で行うかが重要ではないかと考える。
- ・具体的には、自然休養村の中に管理センターや養魚組合ができたが、一体感がないため、もったいない。今後の施策のキックオフになればいいと思う。皆さまが思う「振興」について、行政とはボタンの掛け違いがある。例えば、皆さまのお声をいただきながら寄の将来像を作って、改めて進めていくべきだと考える。「株式会社寄」というイメージで、寄を一つの組織として、各エリアの良い所を活かしつつやっていきたい。
- ・今後は、デジタル化の推進や第2東名の開通などにより、寄と秦野、都心とも近くなる。その中で、旧寄中学校の利活用や荒廃農地に対する体験型農園、みやまグラウンドのホームグラウンド化、宿泊施設、管理センターの充実について、みなさんと意見を出し合いながら、皆さまに納得していただけるような寄の振興を図っていきたい。

② 本山町長が就任時に掲げた寄スマートエコタウン構想の2期8年の実績と効果及び今後の予定について

(環境上下水道課長)

- ・災害時に孤立してしまう可能性のある寄地区の生活を守るために、電源の確保が重要である。平成25年度以降、寄小学校や旧寄中学校、寄幼稚園、萱沼地域集会施設などに太陽光発電設備をした。寄小学校と旧寄中学校については、蓄電池も設置し、夜間等でも使用できる。
- ・補助金制度については、住宅用の太陽光発電設備やHEMSの設置への補助や電

気自動車購入への補助、薪ストーブ購入への補助、木質バイオマスエネルギー導入事業がある。

- ・福祉センターの温浴施設にボイラーを導入し、二酸化炭素の排出量を削減している。今後、町内の間伐材を活用するために、原木の受け入れ体制の確立を目指しつつ、持続的な実施体制の構築を進める。

(町長より補足)

- ・災害時に孤立する可能性があるため、非常用の電源を確保することにより、不安を和らげたいと考えて掲げた施策。
- ・太陽光発電設備設置への補助を倍増し、補助対象を HEMS と切り離れた。
- ・10/10 補助で小・中学校に太陽光発電設備を設置。
- ・電気自動車の購入に対し 60 万円補助 (20 万円/年×3 年) しており、近隣の市町より高い。災害時には協力をしていただくことを前提としている。また、町の公用車 (リーフ・キャラット) を災害時に寄地区へ持って行く。
- ・小水力発電は調査をしたが、十分な電力が得られなかった。今後、住んでいる方からの承認を頂きながら、電力の確保につなげていきたい。
- ・木質バイオマスについては、木材が地元の燃料になれば、町内で経済が回ると考える。

### ③コロナ禍での町のイベントの開催に係る可否などの基本方針について

(安全防災担当室専任主幹)

- ・令和 2 年の緊急事態宣言終了後、町では、共通のガイドラインを定め、細部では施設ごとにガイドラインを定めた。
- ・町としては、国と県の意向や住民の意見、その時の状況を担当課で判断している。コロナ禍でのイベントや施設の開放については、広く意見を求めるとともに、ガイドラインの中で実施していくことが重要であると考ええる。

### ○質問

- ・森林セラピー地域の認定に向けて検討していただきたい。
- ・災害時に孤立可能性があるため、蓄電池を優先的に集会施設へ整備をお願いしたい。
- ・木質バイオマスについて、現状、町内の木ではなく他町に頼っている。具体的に今後どのように実施体制を構築するのか。

### ●町長

- ・森林セラピーについては、なかなか同調することができていなかった。必要性は十分理解している。
- ・蓄電池は優先順位をつけながら、集会施設にも設置していく。

- ・薪にする木材の受け入れ態勢ができていないのに組織はできないため、まずは受け入れ体制を作った。すべて山北の木ではなく、灯油業者などとのバランスを取りながら、薪にする準備を進めている。本格稼働すれば、年度内には100%松田の間伐材を使うこととなる。

○質問

- ・事前に質問したコロナ禍での対応については承知した。
- ・薪にする木材のストックヤードを作っていただきたい。  
(例) 毎月第1日曜日は〇〇円/m<sup>3</sup>で買い取ります。としていただければ、生産組合で持ち込み、収入とできる。
- ・長期的な取組みとして、秦野峠林道を観光資源として活用してはどうか。  
(例) ヤビツのレストハウス。自転車をターゲット。
- ・寄地区に急速充電所を何か所か設置していただきたい。  
(例) 寄在住の方はいつでも無料。

●町長

- ・ストックヤードを設置し、お持ちいただいた木材に対して支払いができるような体制を作っている。
- ・ヤビツ峠と連携しながら、時間をかけて調整していきたい。  
(例) 土佐原の集会施設を休憩所とする。など
- ・急速充電機については、すこしずつ普及できるよう努力する。

○質問

- ・中津川の田代橋の下流～大寺橋について、高水敷や散策路に土砂がたまっているため、草刈り以外の整備をしたらどうか。(桜の季節などにおいては、おもてなしの精神で迎えられるように！)

●観光経済課長

- ・がんばります！！

○質問

- ・安心安全なまちづくりをうたっているが、その観点で、町道・水路の今一度見直し(整備)をしていただき、そちらにも力を入れて頂きたい。

●町長

- ・整備計画を作って、毎年予算を確保して実施している。路盤の傷み具合などを考慮して対応している。

#### 4 町政報告

※パワーポイント資料に基づき、町長より説明。

## 5 その他

### 6 閉会（副町長）

- ・貴重なご意見をいただいた。時間がかかる案件も、すぐに取り掛かれる案件もあった。
- ・水路や道路については、パトロールでは目が届かない部分もある。ご連絡いただければ、現地確認のうえ、対応していく。
- ・コロナ感染予防については、引き続き、ご協力をお願いしたい。

以上